会津磐梯を訪れて

佐藤 磐梯町長

昭和36年生まれ、日本大学工学部卒業
平成元年磐梯リゾート開発（株）入社。（株）星野リゾート東京営業所長、磐梯リゾート開発（株）取締役総支配人、磐梯町議会議員等を経て令和元年6月から磐梯町長。現在2期目。
この間、磐梯町観光協会長、磐梯清水平開発（株）取締役も歴任

本日は、観光庁の「国際競争力の高いスノーリゾート形成促進事業」の対象地域に三年連続で選ばれた会津磐梯をご訪問し、佐藤磐梯町長、星野リゾート 磐梯事業所 総支配人の森本さんから活動内容をお伺いしました。磐梯事業所では、星野リゾート ネコマ マウンテン、磐梯山温泉ホテル by 星野リゾートの運営を行っています。

森本 総支配人

岩尾専務）

本日はお忙しい中貴重なお時間をいただきありがとうございます。当協議会は、スキーやスノーボードの普及を図るとともに、スキー場を中心とした地域に多くの皆様においでいただき地域を元気にして行くことを目指して活動をしているスノーの業界団体です。皆様の、スキー場と地域を結び付け一体的に「会津」を盛り上げて行く取り組みを是非スノー関係者にご紹介させていただきたいと思い取材にお伺いしました。
活動主体の「会津磐梯スノーリゾート形成計画推進協議会」ですが、DMOでしょうか。

佐藤磐梯町長）

DMOではありません。任意団体です。会津若松市、磐梯町、北塩原村の3市町村を中心とし、観光協会、スキー場やホテルなどの民間事業者にて構成されています。

岩尾専務）

協議会結成の経緯等についてお聞かせください。

佐藤磐梯町長）

会津には歴史文化、自然環境等多くの観光資源があります。ただ、多すぎて、切り口や見せ方、ターゲットの設定等が難しく、魅力がうまく伝わっていませんでした。他地域との差別化が課題でした。私は、町長になる前は星野リゾート　磐梯事業所の総支配人でした。今の森本支配人の前々任です。入社したのは平成元年です。スキー場が開業する前から携わってきました。グリーンシーズンの差別化は難しいですが、「雪」やスキーはインバウンドに刺さります。会津若松市にはスキー場がありません。「雪」やスキーを観光資源としてとらえる発想があまりありませんでした。2023年、アルツ磐梯と猫魔スキー場が連結リフトで一つになり、国内最大級の規模を誇るスキー場になりましたので「会津」を大々的に売り出して行こうという機運ができました。ニセコや白馬に匹敵するようなスキー場を目指したい、そのためには他の地域にはない会津の伝統文化を強調して知名度不足を補って行きたいということです。会津若松市も冬場は雪の影響で観光客が激減します。ネコマ マウンテンを自分のスキー場と考える、そのような発想の転換があってもよいのではないか、ネコマ マウンテンのゲレンデ前に建つホテルの客室は多くはありませんから、スキー客が増えればその多くは会津若松市内に宿泊します。まさにスキー場のベースタウンです。この共通認識が出来上がり、3市町村でこの協議会が発足しました。翌年、会津地域の17市町村で構成されている会津総合開発協議会で星野リゾートの星野代表が講演をし、スキー場単体ではどうしてもポテンシャルが小さい、「会津」の文化と組み合わせることで他との差別化を図り、ニセコや白馬に匹敵するスノーリゾートを目指し海外にアピールをして行きたい、このようなお話をし、皆様のご賛同を得ています。スノーを切り口にまず3市町村で連携を進め、それを広げてゆき「AIZU」を世界的なブランドにして行きたいということです。

岩尾専務）

私もネコマ マウンテンのホームページを見せていただきましたが、他の宿泊施設が大きく紹介されていました。ワンストップで会津全体の宿にアクセスできるということは素晴らしいですね。冬の集客施設としてのスキー場とベースタウンの連携は傍から見ればまさにウインウインです。ただ、実現までには時間を要したようで、現実的にはいろいろなご苦労があったということでしょう。ところで、ベースタウンとしての会津若松市とネコマ マウンテンのメリットはよくわかりますが、スキー場が所在するだけで宿泊施設や飲食店も少ない磐梯町のメリットはいかがでしょうか。

佐藤磐梯町長）

磐梯町は産業の町で観光の町ではありません。観光は広域的ですから、それを市町村の単位で区切り個々の市町村の損得を考えると判断を間違えると思います。会津全体に多くの皆様においでいただき、経済の循環が生まれれば地域全体が豊かになります。このことが町の発展にもつながります。私はこのように考えます。

岩尾専務）

ありがとうございます。ご指摘の通りですね。ところで、このあたりでスキー場のお話もお聞かせください。ネコマ マウンテンの歴史はいかがでしょうか。

森本総支配人）

私よりも町長のほうが詳しいですが、アルツ磐梯（現・ネコマ マウンテン 南エリア）は1992年第三セクターで開業、バブル崩壊後経営破綻をし、2003年に星野リゾートがファンドを募集し、資本と経営を分離する形で経営参加しました。2008年には、経営破綻をした北側の猫魔スキー場も星野リゾートが取得し、シャトルバスで連結をしましたが、1時間くらいかかりました。そこで、2009年から二つのスキー場を結ぶ連結プロジェクトが動き出しました。
ただ、2011年の原発事故に伴う風評被害で、非常に大きな打撃を受け、連結プロジェクトもとん挫し、ファンドが撤退したことから、地元を守るためスキー場も星野リゾートが所有することになりました。コロナ禍の2020年に、ゼロからのスタートということで、コースで繋ぐのではなくリフトで繋ぎ、尾根を越えることとなりました。私も、星野代表といろいろなコースを歩きました。熊にも出会いました。北は国有林、スキー場全体が国立公園内です。許認可を取るのも大変でしたが、2023年春にようやく着工にこぎつけオープンすることができました。

岩尾専務）

スキー場につきましては、SNOW 3号でも取材させていただいていますので、概要の紹介は省略させていただきます。客層等はいかがでしょうか。

森本総支配人）

中上級者が多く、来場者はほぼ車です。県内が4割、来場者数は20数万人、インバウンドはまだ数パーセントです。台湾が半分、後はオーストラリア、タイです。中国や韓国の方は風評被害でほとんど見かけないですね。スキー場の連結を機に首都圏にプロモーションをかけていますので、従来、新潟や長野に行っていた方の来場も増えて来ています。ホテルはインバウンドが4割、着実に増えています。

岩尾専務）

インバウンドの方が増加しているということですが、ニセコや白馬ではリフト料金はともかく、宿泊、飲食の値上がりが激しく、日本人が泊まれなくなっているという声も聞こえてきます。いかがでしょうか。

森本総支配人）

インバウンドも皆が富裕層ではありません。ピラミッドもすそ野のほうが広いです。ニセコや白馬は高すぎて行けない層、オーストラリアでいえば、アッパーミドルくらいがターゲットです。提供価値に見合わないような、無闇な値上げは考えておりません。

岩尾専務）

多くのスキー場では人手の確保が深刻です。人材の育成の点からも、グリーンシーズンの活用による通年雇用や外国人の雇用はいかがでしょうか。

森本総支配人）

磐梯事業所では、スキー場のほかに、ホテル、ゴルフ場を運営しています。スキー場は夏は営業をしていませんが、ホテルとゴルフ場がありますし、星野リゾート全体で、繁閑で人を融通できます。170人が通年雇用、冬場はさらに200人くらいアルバイトで来ていただいています。外国人の雇用は、インバウンドのお客さんとの兼ね合いですが、星野リゾートでは台湾で現地採用もしていますので、グループ内で調整ができると思います。

岩尾専務）

確かに、他のスキー場にはないグループの強みですね。ところで、先ほどご案内していただきましたが、猪苗代湖や磐梯山、スキー場からは素晴らしい景色が望めます。グリーンシーズンの活用は検討されていないのですか。

森本総支配人）

素晴らしい資源があることは十分承知しています。優先課題はスキー場の連結でした。夏のシナリオはあります。ストーリーも大切です。二番煎じではないものを中長期計画の中で作って行きたいと考えています。

岩尾専務）

最後になりますが、地球温暖化でますます雪が少なくなり、スキー場にとっては死活問題です。環境への取り組みはいかがでしょうか。

森本総支配人）

星野リゾートでは環境負荷の軽減を意識した運営を行っており、磐梯事業所では消滅型のゴミ処理機の導入準備を進めております。これは堆肥型と違い、ゴミそのものを消滅させて排出量を減らす取り組みです。観光業では航空機、自動車等の移動に伴うCO_2の排出が大きいです。星野リゾートでは、CO_2削減、地域との共生、経営の効率化の観点から連泊を推奨しています。連泊すれば移動が減りますから、それに伴うCO_2も大幅に削減できます。また、滞在にゆとりができますから、地域の周遊もできます。清掃やチェックイン、アウトの手間も減り、業務の効率化も図れます。一泊二日で北海道や沖縄に観光に行く人はいないでしょう。今は休みがとりやすくなっていますから、近間の旅行でも最低、二泊三日でゆとりをもってその旅を楽しむことはできると思います。日本人の意識改革､発想の転換ですね。磐梯山温泉ホテルでは、一歩進めて、年末年始、連休、週末には連泊のみの予約受付をしています。逆に、連泊割引きもしています｡これからは、さらに連泊滞在を推進し、環境にも、お客様にも、ホテルにも価値ある取り組みを進めて参りたいと思います。ゆとりのある旅の楽しさを実感していただき、会津の良さを味わっていただきたいです。
また、間伐とツリーランの両立も考えています。育林のためには間伐は欠かせません。その際、ツリーランがしやすいように間伐をしていただくということです。国立公園区域なのでいろいろ制約はありますが、町や森林組合と相談をして、補助金に上乗せをするなどして、皆が良くなる方策を考えたいです。

岩尾専務）

確かに連泊を勧めて日本人の観光も連泊が標準になれば、CO_2の削減、地域との交流の促進、省力化による人手不足の解消、まさに良いことづくめですね。
内堀知事も初めてオーストラリアのSNOWエキスポに参加され「会津の雪」を宣伝されたとお聞きしました。知事のお立場では、浜通り、中通り、会津、それぞれにバランスの取れた目配りが必要でしょうが、観光という切り口では、一点突破、インバウンドに刺さるということも必要だと思います。知事も「雪」に目を向けられたようです。スノースポーツと伝統文化を兼ね備えた「AIZU」を、ぜひ世界に発信していってください。本日はありがとうございました。